



じょうくう くうき 上空へいくと空気はどうなるの

くうき 空気はうすくなる

ふじさん たか やま のぼ いてぐる かん けいけん
富士山のような高い山に登って、なんとなく息苦しい感じがした経験は、ないでしょうか。
くうき じょうくう
空気は上空へいくほど、だんだんうすくなっています。

日本でいちばん高い富士山は、3776メートルの高さがあります。このあたりの酸素の
ちじょう ぶん
こさは、地上の3分の2ぐらいしかありません。それで、いてぐる かん
息苦しく感じるのです。

せかい たか ちじょうじょう
世界でいちばん高い、チョモランマ(8848メートル)の頂上では、それこそ、もっ
いてぐる かん
と息苦しく感じることでしょう。

くうき ぶんし ちい りょう すく 空気の分子(小さいつぶ)の量が少なくなる

くうき さんそ やく
空気は、酸素が約21パーセント、ちっ素が約78パーセント、そのほか、アルゴン・
にさんかたんそ
二酸化炭素・ネオン・ヘリウムなどが、わずかにふくまれています。

くうき ぶんし ひじょう ちい ぶんし りょう おお すく
この空気は分子という、非常に小さなつぶからできています。この分子の量が多いか、少
ないかによって、くうき
空気がこいのか、うすいかということになります。

てんき へんか ちじょう 天気の変化は、地上から15キロメートルまで

ちじょう じょうくう ところ ぜんたい ぶんし
地上から、15キロメートルの上空までの所に、全体の90パーセントの空気の分子が
あつ じょうくう ぶんし すく かせ くも
集まっていて、上空へいくほど、空気の分子が少なくなります。また、風がふいたり、雲が
あめ ふ てんき へんか じょうくう なか お
できたり、雨が降ったりする天気の変化は、この上空15キロメートルまでの中で、起きて
います。(監修・村山 貢司)

